

第1回 市長と地域との懇談会

日 時：令和7年8月8日（金）

午後2時から4時まで

場 所：パルティセと マルチメディアルーム

参加者：28名

【内 容】

テーマ1：次期将来計画（未来を見据えたまちづくり）について

＜子育て支援・若者定着・教育の充実＞

子育て世代に選ばれるまちづくり、子育て支援の拠点整備

地元高校生や若者の地元定着促進、若者が活躍・参加できる場づくり

多世代交流の仕組みづくりや促進

教育の選択肢拡充や地域教育の強化、子どもに郷土を伝える工夫

子どもが安心して過ごせる環境、安全な通学路の整備

＜防災・安全・福祉の強化＞

防災の観点をまちづくりに組み込む、災害に強い街づくり

高齢者や障害者が安心して住めるまち（バリアフリー、支援体制強化）

共助・助け合いの仕組みづくり

＜観光振興・地域資源の活用＞

観光資源の発信・整備（道の駅や観光案内所、観光施設の充実）

新しい観光の形や体験施設の模索（テーマパーク的施設、子ども向け観光体験）

地域の歴史・文化の保存と活用

地場産業や陶磁器産業の支援とPR

＜地域コミュニティ・多文化共生＞

地域で支え合うコミュニティづくりや参加促進

多文化共生の推進、外国人住民の参加や情報発信

地域間交流の活性化

交通や買い物環境の充実

＜スマートシティ・テクノロジー活用＞

スマートシティ推進や新技術の導入

人流データの活用、安全対策のデジタル化

テーマ2：市制施行 100 周年に向けて

＜大規模イベント・市民参加＞

100 周年記念の大イベント開催（瀬戸焼をテーマにしたものや瀬戸万博など）
市民参加型の企画や若者・子ども巻き込み
多世代が参加できるイベント企画（子どもから高齢者まで）

＜観光・PR 活動の強化＞

観光客誘致や観光拠点づくり
SNS 映えを意識した広報、動画やテーマソングの制作
最新技術活用の PR 動画制作
ギネス記録や有名人（藤井聡太さん）の活用

＜地域の歴史・郷土愛の再認識＞

歴史・文化・地場産業を学ぶ機会の創出
市民の郷土愛を育むプロジェクト
歴史資料の保存・展示や証言記

＜未来志向のまちづくり・課題解決＞

未来ビジョンの策定、100 年後のまちを見据えた政策検討
出生率向上・子育て支援の強化
空き家活用や定住促進

＜地域交流・ブランド形成＞

近隣市町や地域内交流強化
魅力ある地域・ブランドづくり、郷土愛のキャッチコピーづくり
商店街・産業と連携した活性化企画

意見交換

Q1. 地域おこし協力隊の活躍の場はあるか？

A:瀬戸市でも自然を活かした活動や、移住促進といった幅広い取り組みが可能で、地域おこし協力隊の活躍が期待できます。

Q2. 防災に対する市民の関心をどう高めるか？

A:瀬戸市も自然災害のリスクが高く、防災神話はありません。市民には、自分の地域の防災体制を見直す意識を持ってもらい、防災団体などと連携しながら、地域ぐるみで取り組んでいきたいと思います。

Q3. 通学路の草取りについて市の対応は？

A:草取りのボランティア活動、感謝しています。ご連絡いただいた件は県の管理である可能性が高いため、改めて市からも県へ働きかけます。市も毎年3億円規模で草刈りに取り組んでいますが、草の成長が追いつかず限界もあるため、地域との連携も検討させていただきます。

Q4. 環境面での懸念（ヤード・ソーラーパネル）については？

A:ヤードなどは民地の可能性が高いですが、自然環境への影響や安全性の観点から、指導が必要な場合は対応を検討します。水質検査や災害対策も含めて、市としても調査していきたいと思います。

Q5. 外国籍の子どもたちへの日本語教育支援は？

A:初期日本語教育の体制強化が必要との認識です。また、高校に進学した外国人子どもが苦勞している現状もあるため、外国籍児童が通いやすい学校やクラスの設置について、県に働きかけていきます。

Q6. 天然記念物の木が切られてしまった問題については？

A:県と市の間で連携を強化し、貴重な自然資源の保護を徹底していきます。

Q7. 瀬戸市駅周辺に「せともののまち」らしさが足りないのでは？

A:駅を降りた瞬間に「せともののまち」だと感じられる演出を検討したいと思います。SNS 映えだけでなく、瀬戸の魅力を発信できる取り組みも引き続き行っていきます。

Q8. 登り窯の保全・復活支援については？

A:貴重な文化財としての登り窯を守るため、地域からの要望も踏まえて支援や整備について検討します。

Q9. 若手陶芸家の活躍の場が少ないのでは？

A:若手の活動は行われていますが、PR 不足で市民に伝わっていないのが現状です。情報発信の方法を改善し、活動の場を広げる支援も検討します。

Q10. 外国籍の人との文化交流についての取り組みは？

A:互いの文化を理解し合うことは多文化共生の第一歩です。地域の自治会などに外国人を巻き込む活動も進めており、今後も文化交流の場を広げていきたいと考えています。

Q11. 要約筆記・手話など聴覚障害者への配慮は？

A:会議や講演会に手話や要約筆記を付けられるよう検討し、誰もが参加しやすい環境づくりを進めます。

Q12. 市民の小さな努力をどう活かすか？

A:草刈りや環境整備、苗の配布など、市民の地道な活動はまちづくりにとって非常に重要です。そうした活動を横に繋げ、市としても支援や広報を行っていきます。